

## 平成30年度境港市原子力発電所環境安全対策協議会

- 日 時：平成30年5月11日（金）午後1時30分～3時
- 場 所：境港商工会議所3階 大会議室（大ホール）
- 日 程

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 題  
島根原子力発電所3号機の概要について
- 4 閉 会

- 出席者（別途出席者名簿参照）
- 会議録（要旨）

- 1 開会（山田自治防災課長）
- 2 会長：中村市長のあいさつ
- 3 議題（説明：中電）

<委 員>

来週17日には、もう島根県に3号機（新規制基準適合性申請への）事前了解の申し入れが行われるような報道があった。周辺住民への説明がなされないまま申し入れということはどういうことか。既に流れが決まっているのではないか。

<中 電>

先日新聞報道されたが、日程等を決めたという事実はない。ご指摘がありました通り、順次、皆様方に3号機の内容について説明させていただいている。

<委 員>

新聞で報道されているが、これは間違いか。

<中 電>

スケジュール的に決まったものはない。

<委 員>

本日は何を説明するための会議か。

<中 電>

平成17年12月に着工した時点で安全協定を締結している島根県、松江市の立地自治体の住民には説明したが、周辺の住民へは説明ができないまま現在に至った。本日は、周辺の自治体の皆様にも説明をさせていただいている。

<委 員>

3号機の新規制基準適合性申請をしますよ、ということなのか。

<中 電>

3号機に関し、ご理解をいただきたいという説明。もちろんこの後、国への申請はできるだけ早くしたいと考えてはいるが、その際は、協定に基づき、立地自治体と同様に丁寧にあらためて説明をしたいと考えている。

<委 員>

関西電力では、大飯原発稼働で家庭の電気代が安くなると報道されていた。(原発が稼働すると)電気代は安くなるのか。また、30km圏内の住民に対しては、電気代の割引はないのか。

<中 電>

化石燃料はほとんど海外に頼っている。原子力発電全てが停止した中でも中国電力は唯一電気代を値上げしていない。電気料金の取扱いについては、各社さまざまな事情がある。30km圏内の電気代の取扱いに関しては、ご意見をお聞きしたということで、ご了承願いたい。

<委 員>

改良型沸騰水型で、中央制御盤の改良により、人員が削減されているので、緊急事態が発生したときに緊急操作が少ない人員で対応できるのか、緊急操作の手順等の訓練は、どうなっているのか。

<中 電>

3号機の運転操作は少ない人員で行うが、人数に変更はない。そのため人員に余裕ができる分、安全性の向上につながる。それでは2号は危険だったのかというところではなく3号についてはプラスアルファのマージンが取れると考えて頂ければ良い。

緊急時の対応は、何か起これば、まず中央制御室にいる当番(当直)が対応する。夜間や休日は、緊急安全対策装置がすぐに動かせるように、現状でも構内に約30名弱の要員が365日24時間対応している。

特に福島事故以降、まずは事故を起こさないように、仮に起きても、いち早く復旧し、或いは拡大防止をする。これは非常に重い話なので、今のような要員面、或いは組織面の対応を充実させている。

<委 員>

3号機は130万キロワットの電気出力があるが、これは中電のエリアの中でどの辺まで賄えるのか。例えば鳥取県全部とか、数字的なところはどうか。

<中 電>

現状、県単位の数字は持っていないが、昔のデータで言うと、2号機は82万キロで大体島根県一県くらいと説明している。そうすると3号は鳥取も含めて十分供給可能だが、電気は送電線を使うので私どものエリア管内で使うという事になる。

<委 員>

新しいABWRは安全性が確保されているという説明があったが、運転するのは

人間であり、ヒューマンエラーはどこの世界でも必ず出てくるもの。社員の意識改革を図っているとされているが、更に必要ではないかと思ひ、どのような改革を行っているのかお聞かせ願ひたい。

<中 電>

人間がミスをしてそれが悪い方向に行かないようにするという設計が基本。例えば、誰かが間違つた操作をすると間違っているという警報を發し、原子炉が自動停止をするというように動く、そういう作りに設計をしている。しかしながら最後は人間が補わなければならないところもあり、先に説明したシミュレーションを使つての過酷な訓練を繰り返すことでヒューマンエラーを少なくしていけると思っている。

<委 員>

廃棄物処理に関して、青森県にはどのように運ぶのか。

<中 電>

専用の船で運送する。

<委 員>

もし、海に落ちてても影響はないのか。

<中 電>

普通の船より転覆しないような安全性を高めた専用船であり、仮に転覆等したとしても低レベル放射線廃棄物であり、不謹慎であるが、あまり影響ない。まず転覆等ありませんのでご安心ください。

<委 員>

3号機の建設計画が平成7年から長期に渡つて建設してきたことに驚いたが、この時代と今の時代は非常に変わっている。このような原子力発電を今の価格ですつとやり続けられると思つているのか伺ひたい。今そこにいる執行役員の方は、それを判断するときには中電にいないので先送りと思ふかもしれないが、中国電力としてどう将来の電源を考えているのか伺ひたい。

<中 電>

原子力発電にはいろいろなコストがかかるが、安定的に、経済的に、また地球にやさしく電気を送らなければならない。安定的に電力を供給するためには、原子力を一定程度その中に織り交ぜていかなければならない。中国電力は一般企業なので、採算が取れるようにやっつけていかなければならない。仮に原子力が非常に高価なものになって、採算が取れないという事であれば原子力は必要であっても選択肢の中に入れることはできない状況になってくる。そういう様々な要素を考慮した上で、原子力は安定的に安く電気を供給でき、我々が企業として成り立つのに十分な物であるという判断で現在進めている。ご理解のほどよろしく願ひします。

4 閉会

以上をもちまして、本日の協議会は終了とさせていただきます。  
皆様、ありがとうございました。